

広袴便り

新年あけまして

おめでんじゅいづいます

会長 吉川 俊雄

広袴町内会
会報第7号

発行日
平成18年1月10日

発行所
東京都町田市
広袴町町内会

発行人
吉川 俊雄

会員の皆様方にとって良い年でありますよう、心からお祈り申し上げます。昨年は会館建設を始め、各事業並びに行事を、無事に行う事が出来ました。これもひとえに、会員皆様のご理解、ご協力の賜と厚く御礼申し上げます。特に会員の皆様のお力添えとご支援をいただき、待望の広袴会館が完成、オープンする事が出来ました。地域の皆様の喜びと思えます。

長い年月、山あり谷ありの中、会館建設に向け全力で取り組んでいただいた各委員会、皆様のご尽力に深く感謝致します。新しい会館は、すでに多くの使用申し込み、ご利用をいただきながら歩み始めました。今後も地域の発展、会員の皆様の種々活動の場としてお子さんからお年寄りまで沢山のご利用をいただき、心豊かな会員皆様の和と親睦を更に深め、地域の向上を目指してほしいと思います。会員が互いに協力し合い、町内会防犯活動、環境美化運動の推進を図り、安全安心の街づくり、生活文化の向上と明るく元気な町に一歩一歩、歩んでほしいと思います。最後に、会員皆様のご健勝を祈念申し上げ、挨拶と致します。



60才～80才希望に満ちて人生を語り合う

待ちに待った朝が来た。午前7時45分朝日に輝く広袴公園にバスが来た。11月17日、18日、バスを貸切つてはじめての旅行です。この企画は毎月の定例会で何回も話し合いましたが難産で心配もあったが、喜々として西伊豆土肥温泉を目指した。「広袴は新しい街、人間関係は挨拶から信頼をつくる。」と森吾一会長はバスの中で語り無事故を祈った。日本の四季は心に豊かさを与えてくれる。名所浄蓮の滝では他県からの老人パワーの旅行者であふれていた。もみじの赤、紅葉が素晴らしく感動の連続であった。宿は土肥温泉ふじやホテルだった。出て来た料理は食べ切れない程の最高の料理。部屋から見た西の空には満月の白い月。水平線はクッキリとして同時に見た夕日は赤くもっていた。露天風呂から下を見ると花時計があり今日一日の終りを告げていた。今回企画し実行した人達に感謝。おかげさまで無事故であったことが旅を締めた。写真が語るようにみんなの心は嬉しさと満足の24名の旅であった。

(西川文二)

みどりクラブ広楽会 第一回貸切りバスの旅



(カット・谷岡 克昭)

江戸時代の広袴村

金子 欣三

広袴の歴史については、副会長の中村一行氏が、「屋号」の話の中で触れておられましたが、ここでは江戸後期の広袴村の様子にしばって見てみましょう。

資料は『新編武蔵風土記稿』です。略して「風土記稿」と呼ばれるこの本は、文化・文政期（一九世紀前半）に、幕府が自ら調査し記録したもので、武蔵の国全体の権威ある官撰地誌と言えましょう。郡ごとに各村をすべて記しており、村の中は位置・地形にはじまり、村の大きさ・戸数・支配関係・高札場（お上のお触れを掲示する所）の位置・小名（コナ）・河川・社寺・旧家その他、すべての事項を挙げて説明しています。十九世紀前半の江戸近郊の農村を知る上で必携の文書です。以下『稿』の記す広袴村をそのまま紹介します。

まず位置、「広袴村は多摩郡の東南にありて木曾郷に属せり、江戸日本橋より九里半の行程なり、その四境の大概は、東の方能ヶ谷村に接し西は真光寺村に添い、南は大蔵村、北は都築郡片平・栗木の西村なり」とあります。次に村の大きさについては「東西およそ六町、南北三町ばかりなり、民家二十三戸散住せり」とあり、地勢については「南北に山丘ありて、田畠はその中間につらなり、東西はうち開けたり、土性は黒土にして畠多く田少なし」とあります。

支配関係については「小田原家人役帳」（戦国時代の小田原北条氏の支配関係と役高を表わす）に七貫八百五十文・小山田弥三郎が知行」と載っており、戦国時代には小田原北条氏の支配下にあったことがわかります。「当村昔より御料・私領入会（イリアイ）にし

て、今は大岡源右衛門が御代官所と、神谷富三郎が知る所なり」とあり、江戸時代には、大岡氏代官所支配の天領（幕府直轄領）と、旗本の神谷氏の知行所の二つに、村内が分けられていたことがわかります。こういう状態の村を、歴史の方では「二給」の地と言っています。幕府直轄領側と旗本神谷氏領のそれぞれに村役人が置かれますので、名主・組頭などの役職は複数存在することになります。

「高札場・村の中央にあり」と記されていますが、現在の広袴中央の交差点近くにあったと推定されます。「小名・上（カミ）村西の方をいう、下（シモ）東の方を言」と書かれています。小名とは江戸時代の字（アザ）のことですが、人家の在る所、即ち集落を指します。広袴の中が、上の集落（講中）と下の集落（講中）の二つに分かれており、概ね広袴中央の線から真光寺寄りが「上」、それより東の能ヶ谷寄りが「下」だったと思われる。

川については「真光寺川・真光寺村より湧出するに よりただちに名とすといへり、村の北寄りを東流して能ヶ谷村に達す、村内にかかることおよそ六町、川幅九尺ばかり、この水を引きて所々の水田につづけり」とあります。山については『稿』は載せていませんが、明治の村誌では、北側の栗木境いに天王山、南側の大蔵境いに大入山の二つの山名が挙げられています。神社は、「熊野社・山王社・天神社・第六天社、以上四社は何れも小社にして小名上にあり、神明社・金山社、この二社も小社にして、小名下にあり、当村の神社はすべて妙全院の進退する処なり」と記されています。この他に天王山の頂上に天王社の小祠があったので合計七社ということになります。明治の一村一社令により、これらはすべて合祠されて、現在の広袴神明社となります。江戸時代は神仏混着だったので、これらの

小祠はすべて妙全院の住職が管理していたようです。寺院については「妙全院・除地（租税免除地）五畝ばかり、「上」にあり、不動山と号す、曹洞宗都築郡片平村修広寺末、開山行室元察和尚寛文十二年寂す、本堂七間半に七間、本尊釈迦木の坐像、長八寸なるを安置す、不動堂・境内南の方にあり、三間に三間半、不動の長五寸ばかり、作知れず、堂前に石階六十三級あり、其の下に一の瀑布あり、天照太神宮白山権現、これも境内にあり、小社」と妙全院のことが記されています。不動堂の処も今と地形はかなり変っていたようで、そこへ至るには六十三段の石段を登らなければならず、また山の裏側には滝が掛かっていたようです。

以上が『新編武蔵風土記稿』の広袴村の項のすべてです。中村氏の「屋号」の話の中にも出てきましたが、天領側の名主は仙蔵、神谷氏知行所側には長右衛門という名主がおり、二給の地なので二人の名主が存在したわけです。幕末ベリ―来航の数年前の、嘉永三年から四年にかけて、仙蔵を筆頭とする天領側と、長右衛門を代表とする神谷知行所側が激しく対立する争論があったようです。江戸中期に旗本神谷氏の知行所が設けられて二給になるその以前、村が天領であった時期には長右衛門家が全体の名主だったようです。長右衛門家は現在の吉川正雄家で、この吉川家には戦国時代の小田原北条氏の文書が数通保存されており、戦国時代からこの家は地方の小土豪という格であったと推定されます。なお明治以降の村の変遷は、明治十一年神奈川県南多摩郡広袴村、明治二十二年神奈川県南多摩郡鶴川村大字広袴、明治二十六年東京府南多摩郡鶴川村大字広袴、昭和三十三年町田市広袴、平成十五年西半分の地に住居表示実施で一丁四丁目の呼称が誕生しました。（8組在住郷土史家・日本地名研究所）

真光寺川を清流にする会と

里親の会?

「真光寺川を清流にする会」は2000年1月8日に8人の仲間が焼き鳥屋に集まり立ち上げました。発起人のメンバーに「エコネット町田」の会員が多いため、「エコネット町田」の一部会としてスタートをきることとなりました。

真光寺川に清流をよみがえらせ、魚や鳥、ホタルや昆虫が戻り、子ども達の楽しい遊び場になることを願ってのものです。毎月第2日曜日の午前9時半に開戸親水（真光寺川が鶴見川に合流する所）に集まり、川の内外の清掃をしています。会員は現在42名に増えました。

00年9月、日本エッセイスト・クラブ専務理事の辰濃和男氏が取材に来られ「暮らしの風」12月号に掲載されました。そのなかに「ドイツのメルディゲン地方に「小川の里親制度」という運動があるそうだ。……」との一節がありました。それが大きなヒントとなって、清流にする会を応援してくれる組織

「真光寺川里親の会」をつくりました。金属製の「めだか基金」ポストとビニール袋に会の趣旨と拠出方法を書いた規約を入れポストの横に吊りました。01年4月29日、5箇所



第2回真光寺川まつり

のポイントに設置しました。現在6箇所で会員数は133名です。
(山本 隆治)



第1回真光寺川清掃作業

広袴公園とせせらぎ緑道を守る会 花とみどりを育てる会

広袴の町づくりに貢献

広袴公園の土手に咲いた彼岸花。ご覧になりましたか。「みどりと花を育てる会」の皆さんが春先二か月にわたって植付けたものです。今秋は少なめでしたが来年は公園一面が真赤に染まるのが楽しみです。

11月24日と30日に花壇に春の花の植付を行うのとこの30日サンセットパークにおじゃましました。一株一株小さな苗を丁寧に手際よく植えられていたが、ちょうど幼稚園の子ども達が帰る時間でした。かわいい声援が次々かけられる中で作業はなんともほ

ほえましく心温まるものでした。ここは晴れた日には、富士山も覗める眺めの良いところ。公園の花壇とともに是非足を運んでみて下さい。

毎月第一土曜日午前8時30分から公園とせせらぎ緑道の清掃を行う「せせらぎ緑道を守る会」、ここには多くの皆さんも参加します。会の皆さんは常日頃から草刈、ゴミ拾い、花壇の手入れと地域の活性化に情熱を傾けられています。清掃がいき届き、色とりどりの花が咲き、人々が生き生きと生活している町には、あき果や犯罪が少ないと言われたことを実感します。両会の皆さんに感謝し、私もできる事から始めます。

(津志田雅子)



苗の植えつけをする広袴公園の花と緑を育てる会の皆さん



広袴公園とせせらぎ緑道を守る会のメンバー

七回ちゃん
谷岡かつあさ

広袴中規模集会施設建設収支報告書

自 平成16年9月30日 ~ 至 平成17年10月30日

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
町田市補助金 (建設費)	40,000,000	建物建築費 (山口建設)	39,280,000
		設計管理費(山尾設計事務所)	950,000
町田市補助金 (備品費)	1,000,000	備品費(太平独歩、町田防災)	1,064,490
町内会員 寄付金	2,101,000	諸費用(石碑、解体、他備品)	1,988,219
広袴町内会引当金	1,000,000	会議費(上棟式、竣工式含む)	535,966
		事務費(会館案内、ゴム印等)	171,612
		諸経費 (印紙代、NPO)	212,610
雑収入 (祝儀、利子)	185,011	雑費 (記念品、御礼等)	71,291
		町内会会計へ繰り入れ	11,823
合 計	44,286,011	合 計	44,286,011

以上の通り、広袴中規模集会施設に関する収支決算を報告いたします。平成17年11月20日
広袴中規模集会施設建設委員会 委員長 吉川 俊雄



明けまして
おめでとうございます
昨年、広袴町に広袴会館が
誕生しました
今年はこの会館にて広袴町の
みなさまの文化交流の場として
どなたにも気軽に楽と描ける
絵がみと通して心の交流を
又絵がみと通して心の交流を
そんな絵がみを描いてみませんか
場所は広袴会館
毎月オセチ(木)今日は一月十九日(木)の午前
会費は一回1,000円
道具については説明
いたします。初回は何も
用意はいたしません
申し込みは当日会場にて
受付です
絵がみの会
広袴町四三〇 山野辺富子
734-5117

サークル紹介
① 絵がみの会

② 広袴俳句同好会 (広袴句会)

初心者を対象に、毎月第三木曜日の二時から四時、会館で開きます。当日飛び入り歓迎。

広袴は、四季折々の自然が美しい所です。そんな自然に目を向けて、感動を言葉にすれば俳句です。月1回、2時間、俳句で遊びませんか。

細枝につるされるたるザボンかな
膝痛にテレビでがまん冬紅葉
大観の絵巻のごとき冬紅葉
稲刈や自在にかけける犬たのし
店頭に秋の品々並びをり
秋の蜂古墳の縁の日溜りに
冬晴れにとどまる雲は犬に似て
せいしや
けいこ
きみよ
きみやす
やえこ
しゅう
なほみ
(広瀬 俊雄)

編集後記

新年あけましておめでとうございます
町内会というものもろくに知らずに委員となり、広報として活動した昨年でした。お陰様でいろんな方々と知り合え、広袴を少しずつ知る事ができました。広袴便りが皆様にとっても、広袴を知るきっかけになれば良いなと思います。その為に少しでも役に立つ情報を発信できるように編集人一同頑張ります。(百瀬千弥子)

広報部長 松田清貴
編集人 小暮真弓 小菅盛平 津志田雅子
西川文二 広瀬俊雄 三野祥子
百瀬千弥子
印刷 (株)サン・メールサービス